

平成30年度 第2回医療系フォーラム実験小委員会 議事概要

- I. 日 時: 平成30年6月12日(火) 18:00~20:00
- II. 場 所: 公益社団法人 私立大学情報教育協会 事務局会議室
- II. 出席者: 片岡座長、神原委員(G)、原島委員(G)、山元委員(G)、中山委員(G)、二瓶委員(G)
Version2 大西様 事務局:井端事務局長、森下、中村 ※(G)は Glexa での参加
- III. 資料
- 資料① ICT 活用による分野横断型授業設計案(30年6月12日)
 - 資料② 学生募集パンフレット案
 - 資料③ 実験授業の日程(二瓶委員資料)
 - 資料④ Glexa ビデオ会議の利用マニュアル
 - 資料⑤ Glexa ビデオスケジュール調整画面のイメージ

平成30年度第1回委員会議事概要

IV. 議事概要

1. 事務局からの報告事項

- (1) 今回の委員会は実験授業で使用する ICT 環境を確認するため「Glexa ビデオ会議」で開催したことが報告された。
- (2) 前回の議事概要を報告し、実験授業詳細設計案の修正点について以下のように報告された。
 - ・ 目的と概要では、「今起きている問題に取り組む」の表現を「分野横断して社会の問題に取り組む」、「分野を横断する中で、自分の将来の職種を考える」の部分を修正した。
 - ・ 第1段階、第2段階の説明を分かりやすく、「第1段階では分野横断型の学修、それを通じて2年後の自職種の未来像を作っていくと」、「第2段階では臨床分野の分野横断で、臨床的なテーマで健康長寿社会の将来を考える」の表現に修正した。
 - ・ クリティカルシンキング、授業のイメージ図を前面に出して分かりやすくした。
 - ・ ネット授業で、「連携を考える」のは第1段階では難しいのではないかとの意見を踏まえて表現を修正した。前回の検討を踏まえて修正、変更した部分については片岡先生から説明をお願いしたい。
- (3) 本日は「授業の詳細設計の確認」、「倫理委員会の審査の確認」、「ICT 環境の確認」、「授業の実施時期」、「学生募集」などを検討したいことが報告された。

2. 実験授業詳細設計案について(1/2)

片岡座長から、前回の検討を踏まえ、作成した「実験授業詳細設計案(30年6月12日版)」について以下の説明が行われた。

- ・ 第1段階は、自分が健康長寿をまっとうするために何を気を付けるか、自職種としてどの様にすべきかを考える。それを多分野の学生と共有・ディスカッションして多職種の役割を知るというのを第1段階の目的・目標にした。
- ・ 第2段階は、健康長寿社会を実現するために、どのように連携をすべきかを考えるに修正した。
- ・ 3番の(3)では、第1段階は2年生、第2段階は四年制と六年制の学部があるので、高学年学生にした。
- ・ (4)では、医学、歯学、薬学、看護、福祉、介護、栄養の分野が一人ずつ入って、6名で1グループを構成、4回のネット授業を行ない、ネット授業の間隔は最低4日、1回のネット授業は90分から2時間程度、ファシリテーターとして各グループに1教員を配置する、ネット上のディスカッションに関するマナーをオリエンテーションが始まる前に事前に学んでおくということを概要とし、2ページ目に図で明示した。
- ・ 4番目のコンピテンシーのところは5項目あり、鵜呑みにしない、複数の視点から問題を発見する。2番目は自分の意見を分かりやすく人に伝えて、人の意見を傾聴する。3番目は、エビデンスの高い情報を活用する。4番目は、分かりやすく発表してレポートを書ける。5番目は、適切な自己評価と改善する方法を模索できるという項目をコンピテンシーとして掲げており、これを第1段

階、第2段階を通じて身につけていくことにした。

- 5番目の評価では、1から5のコンピテンシーについて以下の評価を行うことにし、
 - 1) 問題発見能力についてはグループ発表、グループの説明会が終わった後の最終プロダクトについて、表1の問題発見能力のルーブリック評価を行なう。
 - 2) と4) のコミュニケーション能力に関しては、ネット授業1から3、ネット授業4、全体会における学生のピア評価と教員のルーブリック評価を右の表の2にしたがって行う。
 - 3) 根拠となる情報活用に関しても、最終プロダクト提出物のルーブリック評価を表1で行う。
 - 4) 問題解決能力も表1のルーブリックで行う。
 - 5) ポートフォリオ・振り返りに関しては、自己評価能力に関して、これも表2のルーブリック評価で行う。

- 表1の20年後の自職種の未来像というプロダクトに対するルーブリック評価は観点が4つあり、問題発見、問題解決、根拠となる情報、文章表現という4つの観点で、レベル3からレベル0の4段階評価を行う。
 - * レベル3は、与えられたテーマから疑問を取り上げた理由、意義を用いて、多分野の視点で考えた経緯を述べている。
 - * レベル2は与えられたテーマから疑問を考えた経緯を述べている。
 - * レベル1が与えられたテーマに対して疑問を設定しているが、疑問を取り上げた理由、意義を含め経緯を述べていない。
 - * レベル0は、レベル1を満たさない。

- 問題解決は、自職種の未来像についていくつかの可能性を検討した上で提案しているかについて、問題解決の観点に対して以下の評価を行う。
 - * レベル3は、いくつかの可能性を考慮した上で自分の意見、考えを加えて説明を述べている、説明には独自性が認められる。
 - * レベル2は自分の意見、考えを加えて説明を述べている。
 - * レベル1は自分の意見、考えが書かれていない。
 - * レベル0はレベル1を満たさない。

- 根拠となる情報は問題解決を支える根拠になる信頼できる情報を示しているでは、
 - * レベル3が信頼できる参考文献のみ複数記載している。
 - * レベル2が信頼できる参考文献を複数記載している。
 - * レベル1が信頼できる参考文献を1つ記載している。
 - * レベル0はレベル1満たさない。

- 文章表現は、未来像を考えた経緯を論理的に組み立て、レポートとしてのルールを守っているかどうかを評価するもので、評価基準は3点あり、①未来像を考えた経緯を論理的に説明している、②レポートとして適した文章、言い回しを用いている、③引用部分と自分の文章との区別を示し、引用部分に関しては参考文献を明示しているの3つを満たせばレベル3、2つだとレベル2、1つだとレベル1を考えている。

これはたたき台としての(案)だが、このような内容で最終プロダクトについてルーブリックで評価することを考えている。

表2は、グループディスカッションや最後のポートフォリオの自己評価に関するルーブリック評価で、以下のように考えている。

- ・ 分かりやすい説明は、観点の説明、自分の意見を分かりやすく他者に伝えることが出来るを観点に、
 - * レベル3、相手の理解について確認しながら分かりやすく説明している。
 - * レベル2、分かりやすく説明している。
 - * レベル1、分かりにくい部分もある。
 - * レベル0、1を満たさない。

- ・ 傾聴では、他社の意見を傾聴できるかを観点に、
 - * レベル3、うなずき、質問を交えて、他者の意見をしっかり受け止めている。
 - * レベル2、うなずきを交え他者の意見を受けとめている。
 - * レベル1、あまり他者の意見に耳を傾けていない。
 - * レベル0、レベル1を満たさない。

- ・ 人間関係の構築、観点の説明では、全員が参加して効果的なディスカッションが出来るように配慮
 - * レベル3、話しやすい雰囲気を作り、全員の意見を引き出すように配慮している。
 - * レベル2、他社の意見を引き出すように配慮している。
 - * レベル1、あまり他者の意見、発言に配慮していない。
 - * レベル0、レベル1を満たさない。

- ・ 自己評価は、他社からの評価を参考に適切な振り返りと自己評価が出来るを観点に、
 - * レベル3、他者からの評価を参考に客観的な自己評価ができる。
 - * レベル2、部分的に客観的な自己評価が出来る。
 - * レベル1、あまり客観的な自己評価が出来ていない。
 - * レベル0、レベル1を満たさない。

以上のように2ページ4番の5項目のコンピテンシーに対して、最終プロダクトを表1のルーブリックで、形成的評価も含めて行う。

グループディスカッションが全体会を含めて4回あるので、それに対しては、分かりやすい説明、傾聴、人間関係の構築のルーブリック評価を、毎回ピア評価と教員評価も行い、それを学生に返して、次回、より改善するように形成的評価を行うというように考えている。

ここでの意見

1. 4. の学生が身に付けるコンピテンシー5. 評価 (表1、表2) の関係が分かりにくいので整理する必要があるのではないか。

※ 表1は最終評価としてのプロダクト (レポート) に関するルーブリック評価、表2はグループディスカッション、自己評価に関するルーブリック評価であるが、分かりやすくするため、5. 評価 の表現を以下のように修正する。

5. 評価 (表1表2 参照)

上記の1)～5)のコンピテンシーについて以下の評価を行う。

- 1) 問題発見能力については、多分野の視点がどの程度反映されたかを最終プロダクト「20年後の自職種の未来像」について、**表1のルーブリック評価を行う。**
- 2)、4)のコミュニケーション能力については、ネット授業1～3において、グループ内学生とファシリテーターによるルーブリック評価とネット授業4(全体会)における他のグループ学生と教員による**表2のルーブリック評価を行う。**

- 3) 根拠になる情報活用については最終提出物「20年後の自職種の未来像」の参考文献について表1のルーブリック評価を行う。
 - 4) 問題解決能力については自職種の将来像の最終提出物「20年後の自職種の未来像」について表1のルーブリック評価を行う。
 - 5) ポートフォリオによる振り返りについて、自己評価能力について表2のルーブリック評価を行う。
2. 問題発見解決学修では、問題に基づいて表2の説明やディスカッションになるが、問題発見が間違っているときに、どこでそのことを指摘するのか。
- ※ 6ページの(9)の下に参考ビデオ資料があるが、このビデオで1番が老化の原因、2番目が老化を防ぐ食事、3番目が微小循環を改善する運動、4番目が心・精神的ストレス、5番目が社会との繋がり生きがいなどになっている。これらが、健康長寿を阻害する原因ということになるが、この部分について分かりやすく番組が作られているので、ますので、工夫してタイトルを付けたりして、学生が見終わった後に一定の理解が出来るように考えている。
3. これは健康長寿のための答えだと思う。この段階をどう改良するか。ようするに食事であり、運動であり、精神的なストレスをどう解決するかという、解決のところを言っているわけで、問題はどこにあるかというのはちょっと意味が違うのではないか。例えば現実の社会の問題であるとか、その個人の生活などから健康長寿の問題が出てくるのではないのか。ビデオの老化の原因、食事、運動、ストレスなどは問題に対する答えであると思う。問題というのはもっと違うところから出てくる可能性が高いのではないか。
- ※ 他から出てくる可能性もあるとは思いますが、高いとは思わない。なぜかという、例えば老化の原因は何だから防ぐためにどうすればいいかということまでこの番組は触れている。何が老化の原因か、食事もどういふものが老化の原因になるから、こういうものを避けるという答えにも触れている。原因に対して対策という形で述べているので、大きな原因5つとそれに対する対応を上げているので、そこはプロブレムマップで学生に拾わせたい、そこから自分はどうするかという話と、次は自職種はどうしたらいいのかを考えさせる。
4. そうすると、1から5について、これが原因だと思うという答えもあれば、まさに違う視点の答えもある。そういった場合にそれがレベル3に該当するとか、そういうようなことに繋がるのではないか。そういう視点で見るとこの「表1のルーブリック評価の問題解決」というのは文章が書ければ問題解決ではなく中身の問題だと思う。文章の書き方よりも考える視点、これがしっかりタームとして出てこないといけない。文書の書き方ではなく、そういう視点があればレベル3、というふうにしなないといけないのではないか。自分が健康長寿をまっとうするためにどういうことに気を付けて、それでどのように自分たちとしてやらなければいけないかを考える。このプロセスを織り込んであれば評価するようなレベルの設定の仕方を考えられないか。自分でいろいろな知識を組み合わせ、自分たちで考えた問題解決のアウトカムを評価していくようにしてはどうか。自職種の未来像についていくつかの可能性を検討していれば評価するとか。
- ※ 自職種の未来像を1つだというふうに限定していればレベル1、2つ考えればレベル2とか、1個に決めて書いていけばレベル1、こういうのもあるし、こういうのもあると考えていけばレベル2とか、3つあればレベル3というような視点で見直す。
5. コンピテンシー4-4)「問題解決のプロセスとその結果について、分かりやすく発表しレポートを書ける」と表1の表現がマッチングしていない。未来像を考えた経緯を論理的に組み立ててレポートとしている。こういう経緯で私は考えましたという論理的が欲しい。それがまさにクリティカルシンキングで求めていることで、問題解決能力に繋がるのではないか。
- ※ 問題発見ができないと全部崩れてしまうので今回は安全策を取ってNHKの番組にした。これはかなりわかりやすい章立てになっているが、それでも見逃すようであれば、途中でまとめを書かせる、一回ビデオポーズをかけて、そこまで、ここで何が言いたいのかをまとめようみたいな感じでやることもいちおう考えたい。

6. 問題発見のところはこれで良いと思うが、例えばレベル1とか0の人に、どういう対応をするのかと、問題解決に対する考えをまとめること、説明の独自性、問題解決をどう考えたのプロセスだねをここでちょっと加えてもらったらよいと思う。

※ 5ページの(3)、自己主導型学修1でビデオ(NHKの番組)を見て課題が2つある。一つが健康長寿を妨げる要因を整理し、要因間の関係を図示したプロブレムマップを作成する。課題2は自分が健康長寿を送るためにどのようにするか説明する資料を作成する。ここで課題が2つあって、それを次のネット授業2でプレゼンテーションし、他の学生に説明する。もしここで何か抜けていれば、お互いの発表の中で気づく事もあると思うし、それでも気づかなければファシリテーターが気づきを与えるという形で考えている。この課題1と2は、必ず学生が作ってこなければいけないものなので、そこでチェックができると考えている。

※ なるほど、了解しました。

※ なので、形成的評価というか、都度、都度ファシリテーターがチェックする項目があって、何か遅れている学生とか問題がある学生はそこで検出できるようになる。これは、ファシリテーターのガイドを作って、そういう学生にどう対応するのかをこれから作り込んでいく。

※ 3ページの表1は、最終プロダクトに対してどう評価するかということで、内容・表現を再度検討する。第4授業を終わった後に提出する最終プロダクトに対する評価で、それまでにいちおうプロセスをずっと踏んでいるので、いきなりそれをやるわけではないが、分かりにくいと言われたのもうちょっと練ってもう1回分かりやすくするようにする。

※ 分かりました。説明を聞いてどこに該当するのかが明確になるとよく考えられているなどと思う。

2. 実験授業詳細設計案について(2/2)

次に、4ページは前回の意見を踏まえた第1段階、第2段階の説明です。

流れとしては、第1段階は第2段階を踏むためのステップで練習だということも踏まえて、同じ流れで第1段階と第2段階をやるように考えている。

例えば自己主導型学修1を見ますと、第1段階では「自分が健康長寿を送るために、どのようにするかを考える」のが第1段階、第2段階は「地域における事例について健康長寿社会の実現について考える」ということで、自分から地域にバージョンアップ、レベルアップするということになる。

それからネット授業3では第1段階は「20年後の自職種の未来像を共有」していくわけですが、第2段階では「健康長寿実現のために自職種が行なう事をグループ内で共有」して説明する資料を作成、そして健康長寿社会を実現するためにどのように連携すべきかを考え、健康長寿実現のためにいかに連携すべきか説明を行い、最終プロダクトを作って、最終的には「健康長寿社会実現に向けて自職種が行なうべきこと」について連携も踏まえた最終提出物が出てくるということで、自分の健康長寿が社会における健康長寿ということに発展していくという2段階ということです。但し、第2段階は今回の第1段階のを踏まえて、今後作成して行くことにしている。

ここでの意見

1. この自己主導型学修1の「自分が健康長寿を送るためにどのようにするかを考える」というのがちょっと分かりにくい。

※ 今の自分の生活をいろいろ考え、親や周囲の人を見てどういうところに特に気を付けないといけないか。もしくはどういうふうに行動を変容していかないといけないかなどを考えることで良いか。

一般論ではなく、自分は特にこういうところに気を付けないといけないとか、いつも運動不足だからこういうふうにしなないといけないとか、もしくは家族でこういう病気になっている人たちが多から、それを防ぐために、特に気をつけるとかなど。

※ そうするとこの、自己学修2のところ、あるいは最終プロダクトで、自職種ということを考えことにもつながる。

※ 1段階はまだ2年生で自分の健康ということもあま考えたことがない学生なので、まず一番取り組みやすい自分はどうだということに取り組んでみることから始める。まずは自分に対して、個人で取

り組んでみて、それからそのためには自職種はどういうふうにと、今度は他の人に貢献できるのかということを考えると。

※ だから、自己主導型学修の1のところを「自分が健康長寿を送るために何に気を付けるべきかを考える。」に変えたい。

- 何に気を付けるべきかを考える。
- というふうにするにはいいのではないか。
 - ちょっとですから、第1段階と第2段階では自職種がどうすべきかということを考えるところの視点とか視野が、まず自分しか見ていないのと、地域を見て地域○ 何に気を付けるべきかを考える。
 - というふうにするにはいいのではないか。
 - ちょっとですから、第1段階と第2段階では自職種がどうすべきかということを考えるところの視点とか視野が、まず自分しか見ていないのと、地域を見て地域の中で見たので少し視野が広がるというか。同じことをやりますけど、深まりが出るだろうし。
 - だから、自己主導型学修2のところは自職種はどのようにすべきかというのを広がっているところも、インターのところでは地域の中で自職種はどのようにすべきかということを考えられると。
 - そのほうが分かりやすい、なるほど。分かりました。
 - どころが。
 - 自己主導型学修2の1と2を分けて、2のほう、第2段階のほうは地域において自職種はどのようにすべきかと。
 - これを分けて、「地域において」というのを入れたほうが。
 - なぜかという、1で地域に、自己主導型学修1が地域だから、2も地域において、分かりました、分けます。
 - ということはネット授業の2のところは、これは1本でいいのだね。これは、自己主導型学修の成果だから、自分がというのと地域とで、やることは同じ。
 - それであとは5ページのほうですが、今のこの左側の図を少し詳しく、あと時間のスケールを入れて、ネットオリエンテーションは30分程度で、動画を見てもらいます。これは神原先生から紹介いただいたカナダの心臓学会、これはネット授業1か。オリエンテーションはICTを活用した本授業の目的と進め方、それから今のグレクサ、あと学生用ガイドの活用法、あとプロブレママップの作製法、3番目はアクティブ・ラーニング、クリティカルシンキングについてという3つの内容を、これはあらかじめ録画しておいて、それを学生に見せる。オリエンテーションでは質問を受け付けるというような形で行なうと。今回後でご説明しますが、はじめてこれを取り組むので、いろいろなファクター、ちょっと1グループずつ丁寧に見て、問題があればすぐやり方を対応して改善するという方法をとるので、3グループのオリエンテーションはそれぞれ別々に実施するというふうにしたいというふうに思います。
- それから2番目のネット授業1、約60分ですけれども、この動画は超高齢化に伴うニーズの変化を意識させるビデオの視聴ということで、カナダの心臓病学会が出しているビデオと、あと医療経済、AIなどの今後の動向、課題に関連する映像、これはWatson、医療への活用、Watson、あとは医療経済は三浦先生の講義を録画させていただくと。
- このへんは大丈夫なの、コネクトは。
- この間、委員会の時に三浦先生くっちゃべってくださいよといっただけですね。
- だから、いつこれ録画をとるのかって。
- 僕は直接お願いしていない。10分くらい。
- 私がメールで頼んでみますけれども、ちょっと分からないですね。
- 講義を録画して利用。
- 講義という話ではなかった。三浦先生がそこでいろいろなことを言っていたので、三浦先生そのへんを一回くっちゃべってくださいよという話。それで三浦先生が、否定はしなかったものの、OKとも言っていないというだけ。
- だから、医療への活用は大丈夫ね、Watson。

- これはあれです。
- これ三浦先生、今日の委員会で、こんなの先生お願いできないでしょうか。
- それでいついつまでにとかって。
- そうですね、10分程度というのも、あと入れていただいて。しゃべるのは30分でも、あとでちょっと10分くらいで編集させてもらえれば。
- これはちょっとだから、急いでコンタクトをとって。
- 取りあえずいちおう、頼むだけ頼みます。
- この間ちょっと、三菱総研、いろいろ見たのですが、あまりいいのが無かった。それであと3番目は参考、これは参考資料なので、WebあるいはPDFを参考に使えるようにしておくということで、この医師会、日本医師会の地域包括ケアと他職種連携、学修ワークブック、それから平成29年度版の介護と保健ガイドブック、それから3番目が政府の役割と社会保証、4番目に2025年に向けた看護の挑戦、看護の将来ビジョン、5番目が人生100年時代構想会議、6番目栄養に関する基礎知識、これを参考資料として学生に提供する。さらにここまでどういうふうに提供するのかあれですが、3番のほうは参考資料、それよりもさらにもう一段引いたというか、歯科分野だとFDIのビジョン2020、口腔保険の・・・、齶蝕のない社会ACFF、その他、こういうeヘルズネットとかいちおうあります。ただあまり資料が多いと、学生も見切れない可能性があるので、いちおうこの③の資料は必ずすぐ見られるようにしておくということを考えています。その他の参考資料ということで④を出す。
- これ記号が、③の下が1、2、3、4、5、6は使わないから、※にしてしまうか。番号つけないで。イロハでも構わないですけど、それから④の下にまた大きい1があるから、これははさみでくくってしまうとか。番号つけないで、歯科分野とか、それであとはポチでも何でもいいですけど、なにしろちょっと記号だけ気をつけて。
- それで(3)は先ほど申し上げたとおりで、(4)、ネット授業2ですけれども、課題1、課題2、上の(3)の健康長寿を妨げる要因のマップと、それから自分が送るためにどうするか説明する資料について、自己主導型学修の成果をグループ内で共有して、健康長寿を妨げる要因を整理し、要因間の関係をプロブレムマップで、これをグループとして今度作るということで、個人でいちおう作ってきたものを皆で共有して、グループとしてより良いとこ取りをしてさらに作るということになります。
- ちょっと森下さん、下げてください。ちょっと資料、僕プリントアウトしていないので、ちょっと話に合やすようにしてくれますか。
- (4)のところですけども、ここでプロブレムマップ作成のプロセスとグループプロダクトから、6分野の学生のグループファンクション、解析して、どのように貢献しているかを測定する。これはどの程度やるか。いちおうビデオを今回と同様に録画をしていますので、これはその時にファシリテーターがやるというよりは、あとでこういうことも解析できますというふうなことです。あとはピア・レビューというのは、先ほどのルーブリックの表の2のほうを使って、グループディスカッションへの貢献度、学生が相互評価をする。それからファシリテーターも学生のディスカッションをルーブリック評価する、これを表の2のほうを使う。それから次6ページですが(5)、健康長寿社会を実現するために自職種はどのようにすべきかを考えるということで、課題3としては健康長寿社会を実現するために20年後の自職種の未来像を説明する資料を作成するということです。それで(6)、ネット授業3ですけど、20年度の自職種の未来像をグループ内で共有すると。それぞれ6職種の未来像をグループ内で共有して、そしてそのそれぞれの職種の未来像を説明する資料をグループとして今度は作ると。ここで考えていることは、自分は分かっているので、歯科医師はこうなるのかって資料を作りますが、それが他の分野の人たちが聞いて、今何言ったか、ちょっとよく分からないというところを説明をさらに加えながら、どの職種でもわかるようにグループで、それぞれ6職種の20年後の未来像を作る。ここが先ほどの目標の他職種の役割を理解しというところに繋がります。
- だから、そのグループで6職種の未来像を作る。
- まずは自分の、医師なら医師の未来像、医学部は、歯学部は歯科医師の未来像を作っていきます

けれども、それを共有します。共有した上で今度はグループとしてそれを作る。ようするに手直しをして、医と歯と薬と6分野、そこが一つのグループとして他職種の役割を理解するということに繋がる。

それで7番目、これがどの様に連携すべきかを考えるというところが、ちょっと難しいだろうということだったのです。これを予行演習としてやらせてみるか。今回はこの役割を説明するところで止めるかというところは、

- それだから、こいつと合わせていかないといけない。3でしょう。3は、
 - 関連性を考察し未来像を考えるということ。
 - 重なりを、ただの役割が、知るだけだと、どういうふうに連携、関連性が分からない。どういうふうに組むかとか、例えば医師が処方箋を書いて、薬剤師がそれを出すととかという連携が分からないので、そこまで少し、この連携すべきかではなくて、どのように関連するかを考え、この文言、訂正します。(7)はどのように関連するかを考えるで、「べき」は第2段階でおこなう。それで(8) ネット授業4ですが保健医療福祉、栄養を担う職種の未来像と、職種間連携について説明すると。連携ではなくて、職種間の関連について。
 - 職種間の関係と書いてある。
 - 関係について説明を行うと。ディスカッション、説明を起こして・・・点、ディスカッションを踏まえて、最終プロダクトを、グループとしての最終プロダクトを作成すると。(9)、これはすべていちおうこのネット授業を終了した後、課題5として、これが最終プロダクトになりますが、授業1から4を振り返りeポートフォリオを作成すると、もう一つ20年後の自職種の未来像について各自が最終提出物を作成するというので、これが先ほどのルーブリックの表1のほうで、これを評価するということになります。よろしいでしょうか。
- それで今、7ページのほうに行きまして、事前準備のほうの話になりますが、倫理委員会の申請はいちおう昭和大学のほうの承認を得られまして、今先生方の施設に送って、そこで申請をとっていただいておりますが、東邦大学では高松先生からもう申請が下りたということで、だいぶ前にご連絡をいただきました。そのほか、今小原先生も申請中だという連絡をいただきました。あと二瓶先生も申請中ということだったですよ。あとは原島先生は今いかがでしょうか、来月申請ということになっていましたっけ。ミュートになっています。
- 明日まで受付で、出しているのですがけれども、許可が下りるのは7月になると思います。
 - 分かりました、ありがとうございます。あとは、中山先生はまだ入っていない。ということです。
 - 中山先生入られています。中山先生。
 - はい。